

会議議事録

会議名	平成 29 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 29 年 7 月 20 日 (木) 10:00~12:00
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：須貝和則 (国立国際医療研究センター 医事管理課長)、山室 靖 (東京 衛生病院医事課課長)、直井智之 (東大和病院事務部長) (計 3 名) ②本校委員：橋本正樹 (校長)、宮下明久 (事務局長)、吉川 香 (医療秘書科学科長)、 村山由美 (医療秘書科副学科長)、黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、菊池聖一 (診療情報管理専攻科長・医師事務技術専攻科長)、三宅かおり (教務委員長)、 河村和恵 (医療事務教科系研究会リーダー) (計 8 名) ③事務局：川内靖美、高橋 稔 (計 2 名)、(参加者合計 13 名)
欠席者	横堀由喜子 (日本病院会学術部長)
配付資料	①事前送付：□No.1：平成 29 年度医療事務分野教育課程編成委員会名簿、□No.2：平成 28 年度第 2 回本委員会会議議事録 ②本日配付：□No.3-1：平成 28 年度活動の自己点検・自己評価報告書 (点検大項目)、 □No.3-2：医療秘書科、医療マネジメント科、専攻科の平成 28 年度学科運営計画の年度 末点検報告、□No.3-3：平成 28 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告、□No.3-4：平成 29 年度校務分掌、□No.3-5：平成 29 年度クラス担任一覧、□No.3-6：平成 29 年度の進路 決定状況、□No.3-7：平成 29 年度ワセダキャリアサポートプログラムスケジュール例、 □No.3-8：特別講演会実施報告、□No.4：平成 29 年度の重点目標と達成するための計画・ 方法、□No.5：平成 29 年度教員研修計画・実績、□No.6：平成 29 年度学科運営計画、□ No.7：平成 30 年度生カリキュラム (案) ③本日配付印刷物：□平成 30 年度入学案内書・募集要項、□平成 29 年度度講義要項、□ 平成 29 年度学生生活ガイド
委員長	橋本校長
議題等	1. 今年度委員の確認及び本日出席者の紹介 事務局より、資料No.1 に基づき今年度委員の紹介が行われた。また、異動により吉川 医療秘書科学科長が新任、菊池診療情報管理専攻科長が医師事務技術専攻科長兼任、学 務課の委員会事務局担当が川内に変更になったことについて報告が行われた。 2. 校長挨拶 橋本校長より、本日出席の企業等委員の方々への謝辞の後、看護科が開設 3 年目の完 成年度を迎える今年は、医療と福祉の専門学校として学科間の連携をさらに強化し、来 年度以降始まる 18 歳人口の急減期に対応していくため、既存学科の再編、社会人、外 国人を対象とする教育の可能性を視野に入れつつ、学校運営計画を進めている。 医療事務の仕事の高度化に対応するため、今年 4 月に、医療秘書科、医療マネジメン ト科の卒業生を対象とした医師事務技術専攻科 (1 年制) を開設した。本校の教育のル ーツは速記=記録技術ということもあり、医療文書作成、カルテの代行入力等にも対応

し、即戦力となり得る医師事務作業補助者の養成を行っていききたい。本日も委員の皆様には、専門家の視点からのご意見やカリキュラム等へのご提言をいただきたいとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認

本委員会の議事録の作成方法について事務局より説明が行われた後、橋本委員長より、前回議事録（資料No.2）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

4. 平成 28 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 本校の平成 28 年度重点目標の年度末点検報告（説明者：橋本校長）

資料No.3-1 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 医療事務分野各学科の平成 28 年度学科運営の年度末点検報告（説明者：村山副学科長、黒田学科長、菊池専攻科長）

資料No.3-2 に基づき各学科の報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(3) 平成 28 年度第 2 回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長、事務局高橋）

資料No.3-3～3-7 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(4) 特別講演会実施報告（説明者：黒田学科長）

資料No.3-8 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 平成 29 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）

資料No.4 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 平成 29 年度教員研修計画・実績について（説明者：三宅教務委員長）

資料No.5 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 平成 29 年度の教育活動と学科運営、計画等について（説明者：吉川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長）

資料No.6 に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 平成 30 年度生カリキュラム編成等について（説明者：吉川学科長、黒田学科長、菊池専攻科学科長）

資料No.7 に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

9. 全体を通しての質問・意見・提案と意見交換等

本校委員と事務局による議題 8 までの報告、説明が終了後、企業等委員から全体を通しての質問・意見・提案があり、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

10. 次回日程、その他

事務局より、本委員会は年2回の開催であり、次回は2月を予定している。10月に各委員の予定をお伺いして日程調整を行う。テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ①平成29年度学科運営の進捗報告
- ②平成29年度カリキュラムと教育の実施状況報告
- ③平成30年度カリキュラムと教育の進め方について

最後に、橋本委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

平成 29 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

○本日の委員会は、議題 4 が平成 28 年度から 29 年度の上半期、夏休み前までの報告、議題 5～8 が平成 29 年度の計画説明になるが、質問・意見・提案と意見交換等は議題 8 の終了後にまとめて行うことになった。

4. 平成 28 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 本校の平成 28 年度重点目標の年度末点検報告

○橋本校長より、資料No.3-1 に基づき以下の報告が行われた。

① T P C の育成と強化

- ・昨年上半年に学科別の強み発見ワークをリクルートの協力を得て行った。
- ・強みを生かすための戦略として、アクティブラーニングなどにより考える力、前に進む力、積極性、コミュニケーション力を育てていくことを具体的に進めてきた。

② 退学防止

- ・3.5%という高めの目標を設定する中、医療秘書科のAO入学者の退学が目立つ状況があり、3月31日での退学者が39名(退学率5.1%)になった。防げる退学は極力防ぐというスタンスで臨んでいる。

③ 授業公開、インストラクションスキルの向上

- ・教員研修は教務委員会が中心になって活発に行われている。
- ・授業公開も大きく進展した。

(2) 医療事務分野各学科の平成 28 年度学科運営の年度末点検報告

(ア) 医療秘書科

○村山副学科長より、資料No.3-2 に基づき以下の報告が行われた。

- ・知識と技能の領域においては、医療、医学に関する用語、保険制度、医療法規についての知識、技能を意識しながらカリキュラムを編成した。
- ・態度の領域においては、就職してからも医療業界に関心を持ち、その動きに敏感に反応できることを根底にした教育を意識してきた。
- ・授業の理解度の向上や対話力の育成を意識しながら授業を進めている。1年次は受付、ホスピタリティー、2年次は受付の上級編、病棟のコミュニケーション、パソコン演習IVなどでアクティブラーニングを意識した授業を行った。後期では学生サポーター制がカリキュラムに含まれ、実際に稼働するところまでこぎつけた。
- ・学生の学習の進捗状況や退学防止に関する情報を教員間で共有している。特に退学が多かった1年生についてほぼ毎月、担任会を開いて情報交換をしてきた。
- ・退学防止は、担任は学生一人一人と面談し、必要に応じて保健室や学生相談コーナーに自然に誘導できるようにしている。
- ・T P C 育成については、特に意識して授業を行っている。イベントやキャリア教育なども盛り込みながら、年間でメリハリをつけて、それぞれのポイントで自分の成長の度合いが理解できるように構築している。
- ・実習指導では、時間を設けて事前のルール・マナーの徹底、実習中の巡回、その後のレポートの作成という流れを意識して指導している。

- ・主な指導項目では、報告書作成をパソコン演習の時間で、パワーポイントを使いながら後輩に自分の実習経験を伝えるという形で行っている。
- ・就職指導については、年々求人の動きが早くなっていることから、1年生から2年生にかけての就職支援プログラムを若干前倒しして行っている。
- ・インターンシップは、早い学生は10月から開始することもあり、1カ月、3カ月という節目で中止する学生が増加する傾向があったが、開始時期を遅くしてもらおう試みも始めたことにより、中止は少し減ってきている。
- ・資格取得では、診療報酬請求事務能力認定試験合格者は1年生が24名、2年生が13名であった。
- ・退学者数は21名で3.5%の目標を超えている。減少はしたが、まだ気になる数字なのでさらに努力していきたい。

(イ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料No.3-2に基づき以下の報告が行われた。

- ・学生が自分で考えて、発信する授業、マナー・接遇、ホスピタリティーの科目をカリキュラムの中に盛り込んだ。
- ・私と4名の担任で定期的な打ち合わせ、日常的な情報共有を綿密に行い、学生指導、ひいては退学防止にもつなげていく体制づくりをしている。
- ・年間計画では、学生への担任による個別面談、医療機関で活躍されている職員のお話を直接学生に聞かせる特別講座、イベントに力を入れている。
- ・実習指導、実習対応については、2年生の夏にほぼ4週間という重みのあるカリキュラムなので、指導に力を入れている。
- ・就職支援体制は、キャリアサポートセンターと連携をとりながら、個別面談、特別講義などを行っている。
- ・検定取得目標と結果については、専門分野の基礎的な知識を身につけるための大きな手段であり、学生の具体的な目標であることから、各年度の取得目標を学科で定めて、それに対する取得状況を検証している。
- ・就職状況は、医療マネジメント科の場合は半数を超える学生が診療情報管理専攻科等の3年次に進むが、求職者に対してはきちんと支援をして、最終的には内定率100%を目指している。
- ・退学の状況は、特に1年生の担任を中心に各クラス、細かく対応、指導をしてもらったが、3.5%以下という目標をクリアすることができなかった。今年度以降もさらに細やかに対応していく必要があると考えている。

(ウ) 診療情報管理専攻科

○菊池専攻科長より、資料No.3-2に基づき以下の報告が行われた。

- ・診療情報管理で得られる情報を、データベースを使って整理、解析し、統計資料を病院の経営や医療の質の改善に生かせる人材を育てること、また、DPCに対応できる管理士を養成することを意識したカリキュラムとしている。
- ・TPCの強化については、グループワーク、発表形式の授業を取り入れているほか、学会発表の指導、マナー指導等を行っている。
- ・学生情報の一元化では、教員間の情報の共有により細かな対応ができています。
- ・年間目標は毎年同様な状況だが、28年度ぐらいから求人の前倒し起きており、就職指導の早期開始を意識している。

- ・実習指導においては、挨拶をきちんとする、勝手な行動をとらないなど、細かい事例を挙げて事前指導をしているほか、事後のレポートの作成、報告も行っている。
- ・就職指導はキャリアサポートセンターと連携し、専攻科生の場合は数年前から大学病院への就職意識を高めるよう案内している。29年度生に関しては2年次の段階で筆記対策と面接対策に力を入れ、受験前には必ず面接指導を数回実施している。結果は、求職者44名のうち43名が就職できた。
- ・検定試験は診療情報管理士の認定試験をメインに位置付けている。医療秘書技能検定、ICDコーディング技能検定は2年次までに受験指導は終わっている。4年生は、医療経営士の試験を受けているが、現在までのところ合格者は出ていない。
- ・退学はゼロだった。進級の規定や個別面談で学ぶ意識を確認したことが奏功した。

(3) 平成28年度第2回委員会以降の主な経過

○事務局高橋、宮下事務局長より、資料No.3-3～3-7に基づき以下の報告が行われた。

1. 平成29年度の組織運営関連

- ・平成29年度校務分掌 (No.3-4)
- ・平成29年度クラス担任一覧 (No.3-5)
- ・平成29年度学事日程 (学生生活ガイドP4～5)
- ・平成29年オープンキャンパス日程 (SOKKI SCHOOL GUIDE P91～94)

2. 自己点検・自己評価関連

- ・学校関係者評価委員会において以下を報告している。

3 / 18 平成28年度第3回委員会	7 / 1 平成29年度第1回委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の年度末点検報告) ・平成28年度重点目標の年度末点検報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度活動の自己点検・自己評価報告書 (点検中項目) ・平成28年度活動の自己評価報告書 (点検大項目) ・平成28年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題の進め方の進捗報告 ・平成29年度重点目標と達成するための計画・方法

3. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・平成28年度退学者数 (別添参照)

(2) 就職活動の状況

- ・専門分野就職率 99.3%、正職員就職率 97.9%
- ・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる
- ・平成29年度進路決定状況 (No.3-6)
- ・平成29年度ワセダキャリアサポートプログラムスケジュール例 (No.3-7)

(4) 特別講演会実施報告

○黒田学科長より、資料No.3-8に基づき以下の報告が行われた。

- ・医療秘書科、医療マネジメント科の入学生に対して、病院の事務部門で働くことの具体的なイメージ

をつかみ、今後の学習の指針になるように、三井記念病院の方に講師をお願いした特別講演を毎年実施している。アンケートの結果は、おおむね好評だった。

○橋本校長より以下の補足があった。

- ・専門学校の入学生は就職が前提で、卒業後の自分の仕事をよく理解した上で入ってくると思われているが、そうではない学生もかなりいる。オープンキャンパス等で様々な工夫はしているが、実際のところは入学してみなければわからないこともあることから、早期に特別講演や具体的な仕事の話に接する機会などを意図的に設けている。

5. 平成 29 年度の重点目標と達成するための計画・方法について

○橋本校長より、資料№4 に基づき以下の説明が行われた。

- ・基本的な目標は平成 29 年度も特に変更はなく、①TPCの育成と強化、②退学防止、③教員研修および授業公開の推進とインストラクションスキルの向上を掲げている。

①TPCの育成と強化

- ・職業人として生き抜くにはみずから学ぶことが重要で、そのためにも学生時代に学ぶことの楽しさを実感できるよう工夫をしていきたい。
- ・特に今年度は、レジリエンス（精神的なしなやかさ、復元力）を身につけ、困難を乗り越えていくことを意図的に考えていきたいと思う。

②退学防止

- ・AO入試による入学者の退学が目立った医療秘書科を特に重点学科とした。AOによる入学者への早い時期の面談、出席状況の確認、複数の目による見守りを対策として進めているほか、次年度のAOによる入学予定者に対して事前に学校に来てもらう機会を設けて、学びの目標や友達づくり、入学後の学習活動が円滑に進むような対策を検討している。

③教員研修および授業公開の推進とインストラクションスキルの向上

- ・授業公開を引き続き推進することと教員個々の専門研修にも積極的に予算を取って推進している。今年度も教育研究誌に投稿してもらうなど、学校として意図的に活動していく。

6. 平成 29 年度教員研修計画・実績について

○三宅教務委員長より、資料№5 に基づき以下の説明が行われた。

- ・研修の参加件数は昨年度よりふえている。
- ・教務委員会主催の研修は、8月3日にプレゼンテーション研修を予定している。申込人数 52 名を2つのグループに分けて、3時間ずつの研修を行う。もう1回は2月の下旬から3月の中旬にかけて実施するが、テーマは検討中である。
- ・外部研修の受講に対して、一人上限2万円を補助するシステムを夏休みからスタートできるように準備を進めている。
- ・授業公開については、6月26日～7月7日の2週間で実施している。今年度の特徴としては、兼任講師への拡大を計画したところ、5名の先生に参加していただいたことで、目標が達成できたと思っている。

7. 平成 29 年度の教育活動と学科運営、計画等について

(ア) 医療秘書科

○吉川学科長より、資料No.6に基づき以下の説明が行われた。

- ・カリキュラムを点検し、より専門性の高い学びを志向する学生への医師事務技術専攻科の周知並びに進学を関係部署等と連携して行う。
- ・退学防止という観点を踏まえて医療秘書科で講じた策として、29年度については学びの速度を緩やかにするため6月の検定試験の受験を回避し、通常の授業のまま秋口まで展開した上で11月の検定に臨む形で取り組んでいる。
- ・学びの成果としての資格取得は、28年度までと同様の結果を求めたい。
- ・1年生が158名入学したが、各担任の先生、全ての兼任の先生も含めた教職員の取り組みで、150名の2年生への進学を達成したい。

(イ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料No.6に基づき以下の説明が行われた。

- ・カリキュラムの決定とともに、先生の依頼・決定をより一層着実に行っていきたい。
- ・スケジュールで前年度と変わった点は、従来は冬に実施していた1年生のフィールドワークを5月に変更して、できる限り早い段階でクラスになじんでもらうようにした。結果的に退学対策の1つにもなるかと思う。
- ・診療情報管理専攻科への進学にあたって、ミスマッチがないようシステムを若干改変した。
- ・検定の取得、資格取得は、できる限り目標を超えるような形で指導、支援をしていきたい。

(ウ) 診療情報管理専攻科・医師事務技術専攻科

○菊池専攻科長より、資料No.6に基づき以下の説明が行われた。

- ・診療情報管理専攻科は、資格の取得目標については上位級のみ絞っている。登録販売者検定は、在校生にチャレンジしたいという者がいたので載せている。
- ・医師事務技術専攻科は、職業柄生涯学び続ける姿勢の重要性を理解させ、専門職として是非、知っておくべきことを授業に取り入れている。医師事務作業補助者の業務範囲は年々拡大しているので、指示されたことだけではなく、学んだことを応用できる人材を育てたい。
- ・技能の領域は、医療文書は速やかに作成できる能力を、電子カルテの代行入力は実務レベルにできるだけ近づけるため、カリキュラムで授業時間数をふやしている。
- ・診療補助の仕事は実習で身につけるよう考えている。チーム医療の一員として周りとうまくコミュニケーションがとれるように、日ごろから「目配り、気配りの重要性について」担任は話している。
- ・業界のニーズに関しては、医師事務作業補助者の業務範囲が拡大していることや、医師事務作業補助部門を置く病院も広がっていることが挙げられ、今後ますます必要性が高まると思われる。
- ・実習先は2カ所で2週間ずつ行っている。資格取得目標は、資料のとおり多種にわたって掲げている。

8. 平成30年度生カリキュラム編成等について

(ア) 医療秘書科

○吉川学科長より、資料No.7に基づき以下の説明が行われた。

- ・平成29年度生と大きく違うところはない。医師事務技術専攻科へのつなぎという役目もあるので、2年次の医療秘書コースの科目を一部見直すべく、医師事務技術専攻科のカリキュラムとのすり合わせを行いたい。

(イ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料No.7に基づき以下の説明が行われた。

- ・近日中に日本病院会の管理士のカリキュラムが大幅に変わるので、それがあつた程度はつきりした段階で30年度生のカリキュラム案を策定したい。

(ウ) 診療情報管理専攻科・医師事務技術専攻科

○菊池専攻科長より、資料No.7に基づき以下の説明が行われた。

- ・診療情報管理専攻科は日本病院会のカリキュラムが変わつたので、取り急ぎそれに対応できるようにつuckingている。
- ・医師事務技術専攻科は教科名が変わつてるところはないが、単位数を現状に合わせて変更した。

9. 全体を通しての質問・意見・提案と意見交換等

(1) 企業等委員からの意見、提案等

○委員より

- ・現場でも、良いものを持つていてるのに中々きっかけが掴めなかつた職員たちが、勉強の仕方がわかると楽しさがわかり、仕事もよくできるということを感じてるので、校長先生の学ぶことの楽しさという話と医療秘書科の緩やかにという話に賛成する。
 - ・退学防止の中でAO入試者の話があつたが、入学の段階で2～3段階に分類して、先生たちの気持ちを少し緩めてあげてもいいのかなと思う。病院も退院支援では社会的な状況や経済的な問題などを予め分類して対応することも多くなつてる。
 - ・教育研修については、例えば医療マネジメント科などは、病院経営に関する幹部の委員会のようなところ、また、チーム医療も今はいろいろあるので、何が行われてるのかを実感する研修を組んでも良いのではないかな。勤務先でもオペ室や救命救急の部屋も見学してもらつてるが、先生方が学生たちの最新の職場環境を認識しておくことが必要と思う。誓約書を提出するなどすれば見学できる病院はあると思う。
 - ・求人が早くなつてると説明があつたが、最近では学生のできる、できないの差が大きいので、なるべく早く良い人材を採りたいという傾向が強まつて、求人が早くなつてると思う。
 - ・資格関連では、診療報酬請求事務の合格目標が低いように感じた。医療秘書科はクリニックのレセプトをやるのであれば、保険請求、レセプトの知識はもっと高く設定した方がよいように思う。
 - ・医師事務作業補助の仕事は内向的、人見知りの人は向かない。人間関係がうまくできない人は厳しいので、向き不向きを見極めて進めていただくとよい。
 - ・今どこのナショナルセンターも医師事務作業補助業務は常勤化に向けた組織的な改革の機運がある。求人も増えたことから、良い人材が流動化して困つてるところもあるので、どんどん育てて欲しい。
 - ・カリキュラムについて、これからはコーディングではなく、マークシート式になつていくようなイメージだと思うが、教育としては、現在の分類法の練習を継続していくことで良いと思う。構造を知つて初めてわかるので、教育の仕方は変えなくてよい。
- 医療統計の中で病院統計というような科目が1つふえるが、それを教えるのを誰にするかが重要かと思う。
- ・4年制の学生はよくできるが、確認が不十分で突き進んでしまうところがある。学習意欲もあり、行動力もあるので自分一人でどんどんできるのだが、病院の場合は確認が必要な仕事が多いので、そこをよく指導していただくと100%以上になるのではないかなと思う。

○委員より

- ・ 医師事務作業補助者は、余裕を持った採用をしようということから、採れるだけ採るようにしているが、レセプトの作成と絡む業務もあることから、全く知識がないと困るケースがある。基礎となるレセプト作成はどの学科でも強化していただきたい。

同じ学校から入ってきて、積極性や対話力の違いから、伸びしろの差が大きくなる。コミュニケーション力が非常に大事だと思う。

○委員より

- ・ 病院の事務職の採用はいろいろな職種があるので、あまり間口を狭めるともったいない面もあるかと思う。医療事務系の仕事は3年周期ぐらいでオールラウンドにやって、成長していってもらいたいと思っている。
- ・ 教員研修の話があったが、東京都の地域医療構想が大分現実化してきていることもあって、特に急性期病院はこのままやってくるのか、方向を変えなければいけないのかの岐路に立っており、変化が求められている状況にあるが、そういう話ができる場面や病院見学があると良いと思った。
- ・ 専攻科に進学予定の医療マネジメント科の学生が実習に来て、話をしたが、普段と違う学生の一面を見ることがある。教室内だと遠慮しているのか、聞きたくても聞けないようなところがあるので、今後のカリキュラムの中に、少人数で話をするような場面を設けられるとよいと思う。

(2) 以上の意見、提案を踏まえ、本校委員からの質問等と企業等委員からの回答、意見交換の概要は次のとおり。

(就職関連)

質問・意見等	回答等
<input type="checkbox"/> 医師事務作業補助は、本校は2年プラス専攻科で3年の教育だが、診療情報管理専攻科と一緒に何か手当がつくようになることはあり得ないか。 <input type="checkbox"/> 医療事務よりは少し高めになるのか。	<input type="checkbox"/> 医療技術〇〇職という括りの中の1つになると思う。 <input type="checkbox"/> 非常勤の例だが、医師事務作業補助者を持っていると時給が1,260円で、普通の事務職と100円違う。キャリアを持った高学歴の方が多く働いている。新卒に期待するのは、明るく、仕事へのモチベーションをしっかりと持った人材を育ててほしいということ。

(実習関連)

質問・意見等	回答等
<input type="checkbox"/> 業界の人材ニーズを踏まえて、医療秘書科の学生に備えてほしい力、卒業時点でどういう人物であることが望ましいか、ご助言、ご指導いただければと思う。 カリキュラムについては、2月の中旬から4月の上旬まで長い春休みがあるので、そこが、学んだ成果を抜け落とす結果になっているのではないかと考えている。そこで病院見学とか、短いサイクルでの実習機会を設けることはできないか。また、仮に数日間、病院実習的なもの	<input type="checkbox"/> 実習について我々は特に期間の希望を出しているわけではなく、学校に合わせるような形で組んでいる。3週間でも大丈夫だ。

<p>のを行うのであれば、今、2年次で行っている4週間の医療事務実習を3週間でプログラミングしていただくことが可能かどうか、教えていただきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>受付であったり会計であったり、医事課の中であったり、一部クラークであったりということかと思っている。</p> <p><input type="checkbox"/>こちらから、それぞれの実習先様のご都合で柔軟にご対応をお願いする形で、3週間、あるいは2週間、4週間というお願いの仕方でもよろしいか。</p>	<p><input type="checkbox"/>医療秘書科という名称のイメージと就職はどうなのか。医療秘書というより医療事務だと思うが、実習ではどこを期待しているのか。</p> <p><input type="checkbox"/>国立系の場合、請求関係は委託が入っているし、クラークは看護部との調整があつて難しい。それに4週間は長いと思う。</p> <p><input type="checkbox"/>私も長いと感じて、学生に感想を聞くときがある。</p> <p><input type="checkbox"/>具体的に、遠慮しないで言ってもらったほうが配置しやすい面もある。2週間受付が良いのであれば、受付でもいろんなところある。</p> <p><input type="checkbox"/>全然かまわない。</p>
---	---

(教員研修関連)

質問・意見等	回答等
<p><input type="checkbox"/>最初にご提案いただいた内容での教員の病院見学はぜひ検討したいが、見学時期はいつ頃が良いのか。2月はどうか。</p>	<p><input type="checkbox"/>8月は会議がほとんどないので、8月が良いと思う。10名以下で構成すると病棟まで見学できると思う。</p>

○最後に橋本校長より以下のまとめの発言があった。

- ・18歳人口が減っていく中で、教育対象も高校生だけでなく、学び直しなど、いろいろな機会をつくっていかねばならない。特に、医療事務の分野は高度化しているので、出口の視点からどういった人材が必要か、今後もいろいろご相談させていただきたい。

以上